



加治丘陵だより

加治丘陵山林管理グループ

平成24年10月25日
創立10周年記念号
第 17 号

NPO法人
加治丘陵山林管理グループ

E-mail iruma@npo-kajikyuryo.net URL <http://npokajihogen.seesa.net/>

創立10周年を祝して



入間市長 木下 博

NPO法人加治丘陵山林管理グループが創立10周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申しあげます。また、日頃より、市政並びに加治丘陵の保全・活用計画の推進に多大なご理解、ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

豊かな自然に恵まれている加治丘陵が里山の姿を残し、首都近郊の地に今なお存在していることは、入間市の誇りであり、自然遺産とも呼ぶべきものだと思います。

入間市の将来都市像である「香り豊かな緑の文化都市」のシンボル、加治丘陵の自然を未来の子どもたちに継承していくことは、今を暮らす私たちの責務と考えております。

平成5年から加治丘陵の公有地化に取り組んで、現在、その面積は90haを越える状況となっています。

しかし、取得した山林は、長い間、人の手が入っていないことが多く、本来の里山が保たれず、適切に管理をする必要がありました。なお、文献によりますと、一般的に放置された山林より、適切に管理された山林の方が二酸化炭素の吸収効果が高いとも言われています。

そのような状況の中、関係者のご理解、ご尽力によりまして、加治丘陵に特化した活動を目的に貴法人が設立されました。その後の10年間の歩みは、力強く、着実なものであり、会員各位のご努力に敬意を表する次第であります。

今後、加治丘陵の公有地化の進展に伴い、その役割は、ますます大きくなることが予想されますので、従来にも増して市との連携を強めていただき、入間市の自然が輝くようご協力をお願ひいたします。

結びに、貴法人の益々のご発展と会員各位には加治丘陵での活動を楽しみ、健康で、ご活躍されますことを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

創立10周年記念号の発刊を祝って



入間市環境経済部長 石川 仁

NPO法人加治丘陵山林管理グループの会員の皆様方におかれましては、ご健勝でのご活躍をお慶び申し上げます。また、日頃、加治丘陵での山林管理にご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

加治丘陵は、首都圏に位置し、秩父多摩国立公園の山間部と連なっているため多様で豊かな自然が残されている里山であり、市民の共有財産でもあります。

市では平成10年に「加治丘陵さとやま計画」を策定し、貴重な丘陵の自然を保全・活用するための基本方針として、公有地化を進めております。現在の進捗状況は、約90.4haを取得できたところです。また、加治丘陵の中央部に計画しました「加治丘陵さとやま自然公園」での初めての施設である「山仕事の広場」を完成させることができました。

貴法人は、設立以来、一貫して加治丘陵の山林管理の中心的な役割を果たされ、技術の研鑽、安全の確保にご配慮いただいておりますことに深く敬意を表する次第であります。

最後に会員の皆様方のご多幸とご活躍を祈念し、創立10周年のお祝いのご挨拶といたします。

記念号発刊に当って



理事長 山畠 博

NPO法人加治丘陵山林管理グループ創立10周年記念号が発刊されること、まことに意義深いものを感じます。

平成14年7月、初代小澤理事長の呼びかけに応じ、金子公民館に集合した16名により発足した当グループも現在176名を数え、研鑽を重ね、内外から信頼されるグループとなりました。

二代目清水理事長も率先して技倆の向上を目指し、会員の指導育成に努め充実した容となりました。

今年は「加治丘陵さとやま計画」が本格的に動き出します。同時に当グループの作業方法も若干変わって、生物の生態系保護のため、それに留意した作業方法となります。

指定された区域は計画に沿った作業を進めて行くことになります。私たちのグループは計画区域424haの広大な山林保護のため、安全第一を合言葉に一致協力して取り組んでまいります。会員およびご支援いただく皆さまの変らぬご協力をお願ひいたします。

創立当時を顧みて



初代理事長 小澤 盛久

先ずは10周年おめでとうございます。

思えば、長年の勤めを終えて、久しぶりに家内と加治丘陵を散歩していた時だった。子供のころよく遊んだその山があまりに荒れ果てているのを見て愕然としたものです。これは何とかせねばと、高校時代の友人である木下市長に相談したところ、市としても保全地域にして、公有地化を進めたのはよいが、手入れをする必要があり、これをどうしようかと困っていたとのこと。そして市の方でも協力するからと言われ、友人知人を口説いて、金子の公民館に16人の同志が集まったのが始まりでした。

当初は任意グループとして、寺竹の市有地で経験者を招き、月1回の実習作業から始めました。その間、会員も増えて、組織作り・補助金の申請・機材の調達・行政との折衝など何度も会合を重ね、NPO法人の認承を受けるため、理事数名で何回も県庁に行ったものです。運営には試行錯誤を重ね、皆さんのご協力により何とか遂行して来ましたが、その後のグループが順調に推移していることは何よりです。

山の新鮮な空気、いろいろな植物や小動物との出逢い、健康管理の高まりもあって、最近は丘陵を訪れる人が多く、遊歩道から見える山の中は見違えるように綺麗になったと言う話が私の耳にも入ってきます。それを聞くと、後を継いでくれた皆さんの活躍がしのばれ、私としても一入深い感慨覚えます。

作業技能の向上と安全に留意されたい



前理事長 清水 徳三

当グループも早いもので10年を経過しました。

私も昔の仕事の経験がこんなに役立つとは思いませんでした。刈払い機やチェンソーなどの動力機械の使用はかなり多くなり、使い方は誰でも早く会得していますが、整備方法をよく理解している人はまだ少ないようです。伐採方法も一部の人が、ある程度覚えたようですが、現場の状況はその都度違います。いろいろな経験を積んで技能を身につけ、それを若い人に受け継ぐようにして欲しい。

そして何より重要なことは、機械は凶器だと認識すべきです。常に安全には充分留意して作業に従事してください。

私もからだが許すかぎり、作業には出たいと思っています。会員の皆さんも高齢化が進んできているため、無理をせず、健康な体でいつまでも頑張ってください。

グループの活動に期待



賛助会員 宮寺会計事務所所長 宮寺成人

創立10周年おめでとうございます。

10年ほど前、大山さんに偶然お合いし「加治丘陵を維持管理するための法人を設立した」と聞きました。活動内容を伺い魅力を感じましたので賛助会員になり、会計処理のボランティアを始めました。

NPO法人は10人の創立メンバーと3ヶ月ほどの認可期間と予算決算は埼玉県への報告義務としますので、相当の覚悟で創業されたと思いました。

平成18年5月より会社法が施行され、会計処理についても「適正な処理」から「適時適正な処理」に変りました。経済行為を会計処理するまでの時間も法律に定義されたわけです。

当法人は創立以来、資金の移動の都度起票し、月次決算を行ってきました。今後ともこの姿勢を継続され、次の20周年に向けて益々のご活躍を期待します。

創立10周年記念総会・記念講演・記念レセプション 盛大に開催

創立10周年の第10回総会が、6月10日(日)午後1時より入間市産業文化センター2階集会室で盛大に開催された。木下市長以下多数のご来賓をお迎えし、山西素直副理事長の司会により、総会員数176名中出席会員62名、委任状提出会員90名、計152名により正会員数の2分の1以上となって総会成立が宣言された。開会に先立ち司会者より、緊急理事会の承認事項として清水徳三理事長の辞任と山畠博新理事長就任が報告された。新旧理事長の挨拶のあと、女性会員により前理事長への花束が贈呈された。

続いて議長に岡野俊介会員が選出され開会された。

山畠新理事長より平成23年度事業報告、当グループの現況説明のあと、第1号議案 平成23年度収支計算書、第2号議案 創立10周年記念事業開催準備積立金計上￥750,000及び作業機器運搬用軽トラック買い替え準備積立金計上￥200,000、第3号議案 貸借対照表、第4号議案 貢産目録、続いて武井・杉野両監事から監査報告があり、第5号議案 任期満了に伴う役員改正、第6号議案 役員報酬の受給者、第7号議案 平成24年度事業計画・収支予算が提案され満場一致で議決され、午後2時10分閉会した。

ご来賓：入間市長 木下 博様、入間市市議会議長 近藤常雄様、衆議院議員財務副大臣 五十嵐文彦様、

県議会議員 田中龍夫様・斎藤正明様、埼玉西武地域振興センター所長 布藤純一郎様、入間市環境経済部長 石川 仁様

(事務局長 大山 博)



多数の会員が出席



挨拶する山畠理事長

記念講演会

講師 木下 博 入間市長

[演題]

「元気な入間と加治丘陵 その未来」

[プロフィール]

1932年入間市生れ。51年豊岡町役場就職、89年助役、92年より市長、現在5期目。「元気な入間」の都市宣言、元気な入間まちづくり基本条例を制定し、市民参加から市民参画への市政実現を目指し、さらなる行財政改革の推進にご活躍されています。

[講演要旨]

市長就任以来、「香り豊かな緑の文化都市、元気な入間」をモットーにやってきたが、当市は全国でも住みよい町としてはトップクラスにランクされている。

その理由の一つとして広大な自然林の加治丘陵があげられる。当初、この乱開発を禁止して保全地域にすることにはかなりの反対があった。しかし、断行はしたものの、その管理、手入れをどうするか困っていたところにこのグループが生れて安堵したものです。

昔から、森には神さまが宿ると言われ、神社の鎮守の森は人々の心の安らぎと絆を維持してきた。加治丘陵は経済性だけではなく、100年先を見据えた市民のハーモニーの丘とすべきである。当グループはそのオピニオン・リーダーとしての使命を果たして欲しい。

記念レセプション・写真展示

総会、講演会終了後、引き続いて別室にて開催。来賓の木下博市長、五十嵐文彦衆議院議員、田中龍夫・齊藤正明県議会議員

ほか多数ご出席、賛助会員、一般会員合計56名が参加、菱川副理事長の司会により進行。

山畠理事長の挨拶のあと、来賓、賛助会員の方々のそれぞれのご祝詞を賜り、懇親会は大いに盛り上がって終了予定時間を1時間以上も過ぎてようやく散会となった。

写真展示は作業中その他のものをA4のカラー計40枚をパネルに貼り、その全てに筆字の1行解説をつけて掲示。特に大木の伐採中の写真は注目を浴びた。

総会・レセプションの写真集



宮寺会員から花束を受ける清水前理事長



豊泉理事の乾杯の音頭



市長・理事長・国会議員の巨頭会談



飲むほどに話がはずむ

加治丘陵山林管理グループ 10年間の歩み

創立期
平成14・15年度

- 平成14年 2月 加治丘陵の保全・整備を目的としたグループ設立の趣旨を入間市当局に説明し、了承を得て作業開始。名称を「NPO法人加治丘陵山林管理グループ」と定める。
- 平成15年 3月 NPO法人設立の認証を受け6月設立総会及び記念式典を入間市産業文化センターにて開催。9月 森林研修旅行を実施（奥多摩御岳地区）10月 当グループのPRと会員相互の親睦を目的として入間万燈まつりに出店（以後毎年実施）
- 平成16年 1月 入間市と「加治丘陵保全業務」に関する業務委託契約を締結。
2月 南峰実習地にて、しいたけ菌・なめこ菌の駒打ちイベント開催。

平成16・17年度

- 平成16年 6月 第2回通常総会開催（入間市市民活動センター） 入間市児童センター協賛で「親子かぶと虫とり大会」を南峰実習地にて実施（以後平成24年を除き毎年実施） 広報誌「加治丘陵だより」創刊号を発刊。7月 森林研修旅行を実施（秩父地区山林・浦山ダム）
- 平成17年 4月 「加治丘陵さとやま管理事務所」（入間市農村環境改善センター敷地内に市が建設）の開設に伴い、作業拠点を金子公民館から移転。6月 第3回通常総会開催（入間市市民活動センター）9月 森林研修旅行を実施（都幾川村大野地区）11月 入間市消防署の指導のもと、救命救急講習会（三角布の作り方、簡易担架の組み立て方など）開催。
- 平成18年 1月 入間市消防署の指導により救命救急講習会開催（負傷者の搬送・緊急通報の仕方など）3月 さとやま探検隊に参加（竹炭つくりなど）

平成18・19年度

- 平成18年 4月 作業中の無事故徹底のため「安全委員会」を設立。広報手段として「ホームページ」を開設。6月 第4回通常総会開催（入間市市民活動センター） 9月 森林研修旅行を実施（飯能市名郷地区） 11月 「入間市市制40周年記念事業」に参加。
- 平成19年 5月 入間市より、無償ボランティア保全整備区域として、南真込谷に4,600m²の提供を受け「ふれあいの森」と名づけ整備開始。6月 第5回通常総会を創立5周年記念総会として開催（入間市市民活動センター）小沢盛久理事長が退任、清水徳三理事を新理事長に選任。7月 当グループの事務所を前理事長宅から仏子1397-3（武蔵野音大前）に移設。9月 森林研修旅行を実施（妙義山、富岡製糸場見学）
- 平成20年 2月 「加治丘陵だより」5周年記念号（第9号）発刊。

平成20・21・22年度

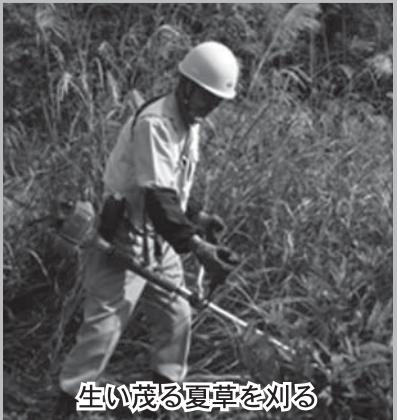
- 平成20年 6月 第6回通常総会開催（入間市市民活動センター） 9月 森林研修旅行を実施（秩父両神山）
- 平成21年 6月 第7回通常総会開催（入間市市民活動センター） 9月 森林研修旅行を実施（奥多摩地区）
- 平成22年 6月 第8回通常総会開催（入間市市民活動センター） 9月 森林研修旅行を実施（寄居玉淀地区） 10月 よもぎ新道沿いの危険木伐採開始、以後南・北コース、住宅付近の危険木、枯山水の伐採作業増加。
- 平成23年 2月 「加治丘陵里山自然公園」として植生管理が見直され、みどりの課との意見交換会実施。

平成23・24年度

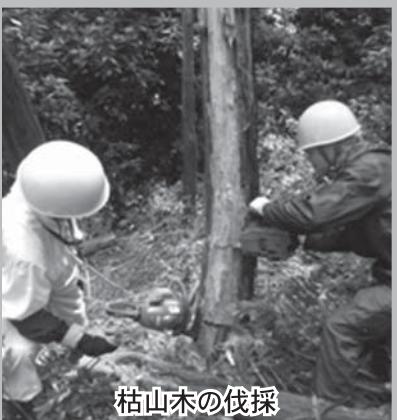
- 平成23年 6月 第9回通常総会開催（入間市市民活動センター） 東日本大震災に会員有志より義援金191,000円を寄付。9月 森林研修旅行を実施（秩父地区） セブンイレブン記念財団の助成金で作業用軽貨物自動車を買い替え。「ふれあいの森」整備計画作業ほぼ完成。
- 平成24年 3月 山仕事の広場オープン。6月 第10回通常総会を創立10周年記念総会として開催（入間市産業文化センター）清水徳三理事長が退任し、山畠 博理事を新理事長に選任。木下 博入間市長が「元気な入間と加治丘陵 その未来」をテーマに特別講演。続いて記念レセプションを開催。全会員に記念品（当グループのロゴ入りTシャツ）を配布。9月 森林研修旅行を実施（川崎生田の森公園） 9月 間伐材を利用した丸太、合計640本製作。

作業活動写真集

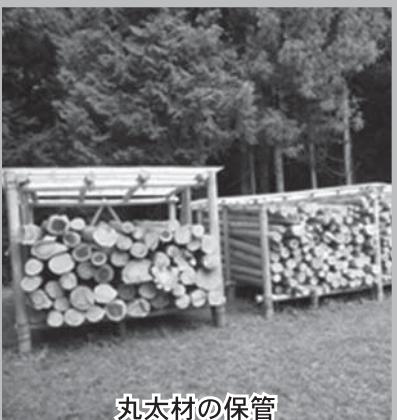
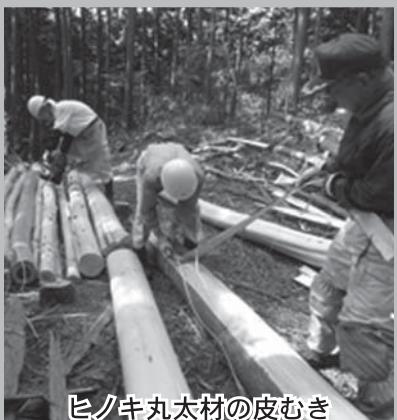
刈り払い機での草刈り



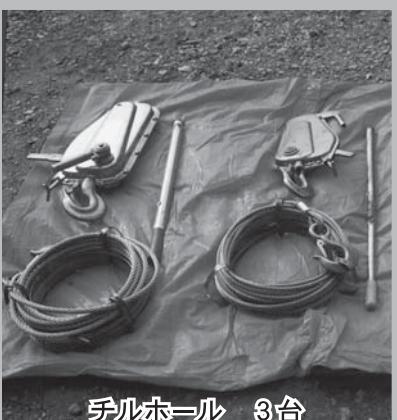
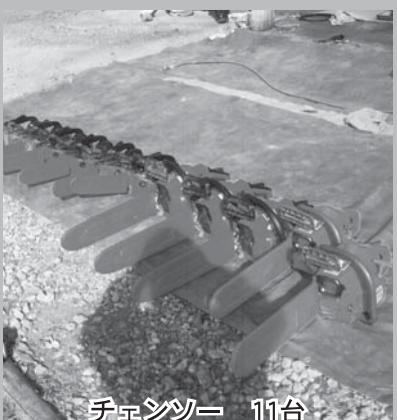
伐採作業



丸太作り



動力機械



記念森林視察研修旅行

多数の会員が参加

9月9日(日)まだ暑さの残るこの日、37名が参加しました。大型バスにより、入間市駅前を起点にして行く先は川崎市の「生田の森公園」。その東日本各地から移設した古民家「日本民家園」をボランティアの説明を聞きながら見学。周囲の森林もよく整備され、合掌作り、馬宿、油家、薬屋などの古民家は昔の面影が偲ばれ、興味深いものでした。

このあと、調布市の古刹・深大寺にまわり、全員で参拝し境内の文化財を見学。そして門前の矢田部茶屋の大広間で昼食、懇親会へと移る。山畑理事長の挨拶、清水前理事長の乾杯の発声のあと、会員相互の懇親を深め、寛ぎの時を過ごし、全員無事に帰路についた。(理事 研修班副班長 砂川英昭)



生田の森公園古民家前にて

平成24年度下記の作業予定について

上期については予定どおりの作業が無事終了することができました。皆さんのご協力に感謝します。

下期については下草刈り、9・10月で20,000m²、11月より26,000m²が予定されています。

また、探検の森の整備にあたり、ヒノキ約130本を間伐し、それを利用するため、長さ3mに切断して皮むきし、丸太材を作り、さらに保管小屋まで運搬しました。これはすでに9月中に、臨時作業で皆さんの頑張りにより約440本を保管することができました。今後、さらにこの丸太を利用した遊歩道の階段造りや、またメモリアルの草刈りや臨時作業もあり、昨年以上に多忙な日程となります。

後半も引き続き、会員の皆さんのご協力、ご支援をよろしくお願いします。

(副理事長 作業班長 菱川浩次)

安全研修会の開催

6月24日(日)さとやま管理事務所および屋外実習

20名参加。研修班副班長砂川理事の安全教育、特に労働基準局まで出向いて調査された注意事項などには全員が耳を傾けていた。

特に今回は、昨年11月の故渡辺忠会員の例もあり、作業前の各自の体調管理（今年始めより作業班長がチェックして実施済み）また、これから夏に向う時期でもあり、熱中症対策についても真剣に討議された。

その後、改善センター西側の山中に入り、会員の事故を想定し、担架による緊急搬出の実地訓練を行った。



砂川副班長の熱弁に聞き入る



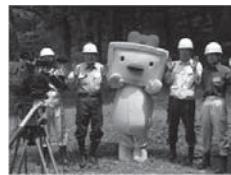
負傷者の緊急搬送訓練

正・副理事長がTV出演

7月上旬 入間ケーブルテレビ

6月24日(日)さとやま管理事務所で、山畠理事長、大山・山西・菱川副理事長が入間ケーブルテレビのインタビューを受け、それぞれ加治丘陵の魅力や整備作業の状況、これまでの抱負などについて語った。

7月になって昼の情報番組「てれびよん」で数回放送され、当グループの活動について市民への良いPRとなった。



「てれびよん」と
一緒にご機嫌

第1回いるま環境フェア開催

6月17日(日)産業文化センター



従来、「入間市環境展」として丸広百貨店で開催されてきたが、今回から市の環境経済部の提唱により、規模を大きくし、いるま環境フェア実行委員会(山西副理事長参画)、入間市環境まちづくり会議、入間市が主催し、関係する協賛の22団体により開催された。

当グループも活動写真などパネル展示。講演やトーク＆ライブなどもあり、来場者多数で初回としては盛況だった。

グループ活動に参加して

会員No.375 大垣敏夫



私は栃木の下野市出身で田舎育ちのせいか、いつも緑の自然に接していたい気持ちになります。地元のウォーキング・クラブやゴルフ愛好会などに入っていましたが退職後、時間もできたので、かねてゴルフ仲間の小林貞治郎さんから誘われており、また近所に知り合いの高橋精二さんと平岡信治さんもいたので入会しました。

昨年4月からですが、なるべく作業には出るようにしています。おかげで最近はスケジュールが毎日満杯となって、体も引き締まったような気がします。

●お知らせ・イベント情報 ●

●入間万燈まつり 10月27日(土) 28日(日) 出店場所：茶の花通り184番

例年のように今年も生イカの丸焼きなど販売します。炭火焼きは、他ではありませんようにやっています。今年の場所は昨年とほぼ同じ茶の花通りの基地沿いで少し遠いですが、皆さんお誘いあわせの上ぜひお立ち寄りください。(実行委員長 高橋精二)

●市民ギャラリーに写真展示

平成25年1月15日(火)～18日(金)の4日間 午前9:00～午後5:00

市役所の1階左側にある市民ギャラリーコーナーで、当グループの紹介・活動写真・マスク「幸せを呼ぶフクロウ」その他木材製品などを展示する予定。ぜひ見学に来てください。

●忘年会 12月8日(土) 場所：未定

■アミーゴ秋祭り 10月7日(土)・8日(月祝)

加治丘陵の間伐材で、安部勝己会員を中心となって作ったフクロウなどを展示。好評を得て良いPRとなった。

■楽山ゴルフ会 10月12日(金)

シルクカントリークラブで開催。

19名参加し、原日出男さんが優勝しました。

入会のお説明

＝会員になって活動を支えて下さい。＝

●我々はボランティアで活動しています。

●176名の会員が汗を流して頑張っています。

●年会費 正会員(個人) 2,000円

賛助会員(会社又は団体) 1口 10,000円

●加入連絡先 04-2932-4515 (山畠 博)

編集後記

10周年記念号ということで寄稿していただいた皆さま、本当にありがとうございました。創立当時からみると幹部の人も、作業に出てくる顔ぶれもだいぶ変わりました。老齢になると作業も困難になるため、もっと多くの新人の入会が望まれます。(編集委員長 小林貞治郎)